



夢中でヤドカリ採取中

午後から場所を銚子ジオパーク・芸術センターの実験室に移し、ヤドカリの生態観察実験です。

子供たちが、それぞれ「テーマ」を決めて観察実験をします。

「ヤドカリ」は人間の行動と似ている部分があります。自分の入っている貝殻よりも、住みやすそうな、貝を背負っている「ヤドカリ」を見つけたらターゲットの「ヤドカリ」の貝を「カンカンカン！」と叩いて貝殻闘争「シエルラッピング」という行動を起こし、貝殻を奪い取る、弱肉強食の行動です。生き物好きの子供たちは、宿替えをする「ヤドカリ」や、何か不思議な行動をとる「ヤ

ドカリ」の行動が始まると「ねえ！見てみて！」と、大興奮です。

いやあ銚子に60年住んでいて、もちろん子供の頃「ヤドカリ」取りをしたこともありますが、こんなにどっぴりと「ヤドカリ」について観察したことが無かったので、まさに「知見を得る」とは、こういう事だったのかと、実感しました。

### 「銚子のマイクログラスチックを調べよう」

加瀬 久美子

7月22日(土)「銚子のマイクログラスチックを調べよう」が子供10名、大人10名で開催されました。講師は千葉科学大の手束聡子先生で、同大女子学生4名と事務局からは岩本学芸員、市民の会から加瀬が参加しました。10時〜銚子ジオパーク・芸術センター実験室で、マイクログラスチック(5mm以下)

についての事前説明があった後、事務局からバケツと鎌を渡され、各自の車で刑部岬下の砂浜に行きました。気温30度の炎天下でありました

が強い海風に身も心も癒されました。ここでは、持参した500円(事前に輪切りにした物)に、砂浜で採取した砂を入れて、実験室に持ち帰った後に昼食になりました。午後からは実験室で、持ち帰った砂の入ったペットボトルに海水を入れて混ぜ、上澄みをフィルターを通して回収。回収したマイクログラスチックを顕微鏡で観察しました。事前に渡されていた表にマイクログラスチックの大きさや色、重さを記入し分類しました。その後、先生からペットボトルの種類は「3」種類あり、これでゴミのリサイクルをすると「3」が出てしまうので難しい。埋め立てる場所が日本にはもう無いと。最後に先生が子供達に質問しました。「豊かな海ってどんな

海？」と。子供達の答えは「魚が沢山住める海、沖縄のような透明な海、きれいな砂浜がある海であってほしいとの事でした。」

### 目に見えない電気と風を知ろう！

宮内 秀

真つ青な夏空の7月28日(金)、標記ツアーが9組23人の参加で、午前は「電気を知ろう」午後は「風を知ろう」を中心として行われました。



発電の説明を聞く親子

「電気を知ろう」は、銚子ジオパーク・芸術センター

ーの実験室において、三菱商事海上風力(株)の関係者を講師として、前半は磁石の間にコイルを入れて回転させると電気が起こることを学び、実験装置でコイルを手で回転させると白熱電球が点灯する発電の仕組みを体験しました。

また銚子の沖合では、銚子市の面積の半分にも及ぶ広大な海域に、長さ200mの羽根3枚で回転する風車31基が海上を吹く風を利用して、一般的な家庭28万棟が使用する電力を供給していることも学びました。

後半はペットボトルと工作キットとで風力発電の風車の模型を作り、うちわで風を送りながら「B」電球を点灯させました。

午後は会場を銚子地方気象台へと移し、気象情報官から風の吹き方や銚子の風の特徴などを学び、風や雨



露場で機器説明を受ける

を測定する機器に触ったり写真を撮ったり、特に上空の風や温度を測るラジオゾンデや大きなゴム気球は人気でした。

この後、屋上から雄大な利根川や大海原を眺めながら風や日射計を、露場と呼ばれる芝生の広場(63平方メートル)では温度や雨量、積雪深計などを近くから見ながら説明を聞きました。再び室内に戻って予報官の執務する様子なども見学しました。

最後に参加された子供たちのお誕生日の天気図や気象観測表など、自由研究のための沢山の資料をおみやげにツアーは終わりました。

12 つくば市立 つかのま 8

つくる責任つかう責任

14 海の豊かさを守ろう

海の豊かさを守ろう